

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>京都府立盲学校創立150周年(令和10年度)に向けて、時代のニーズに応じた学校づくりを第2期5カ年計画として目指す。(4年目)</p> <p>1 自立と社会参加を目指した教育活動の推進 【重点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の基盤となる言語活動の充実</li> <li>・生涯スポーツにつながる基礎体力の強化</li> <li>・職業教育の充実</li> <li>・視覚障害を伴う重複障害教育の充実</li> <li>・自立活動を中心とした研究活動の推進と校外への発信</li> <li>・早期教育(幼稚部)の強化</li> </ul> <p>2 視覚障害教育におけるインクルーシブ教育システムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・盲学校を中核とする「連続した多様な学びの場」(幼・小・中・高・特支)との交流及び共同学習等の推進</li> <li>・京都府視覚支援センターの相談機能(就学前、入学、進路等)の強化</li> </ul> <p>3 共生社会の実現を目指した地域・関係諸機関との連携推進</p> <p>4 人権尊重と安心安全な教育環境を基盤とした学校づくり</p> <p>5 「働き方改革」を踏まえた学校運営</p> <p>6 「京都盲啞院関係資料(重要文化財)」の管理・保存と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府立聾学校と連携した150周年記念資料集の編纂及び記念行事の検討</li> </ul>	<p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領を踏まえた授業改善を進め、授業の充実を図った。校内弁論大会、文化祭等とおして、児童生徒個々の発信力を高める取組が進んだ。</li> <li>・各学部、縦のつながりを意識した取組を積極的に行い、集団の確保と学びの充実に努めた。</li> <li>・個々の障害に合わせてICT機器や視覚支援機器を積極的に活用し、授業改善につなげた。</li> <li>・各学部において、地域校視覚支援学級や他府県盲学校、専門学校等と交流及び共同学習を行った。</li> <li>・個々の生徒に応じた進路先開拓、関係機関との連携強化、各学部段階での適切な情報提供により、進路指導の充実を図った。</li> <li>・緊急時対応マニュアルの整理、緊急時対応訓練、大徳寺校地防犯訓練等を実施した。</li> <li>・関係諸機関と連携し、情報共有を行うとともに、あおぞら教室や北部サテライト教室を実施し、早期支援の充実を図った。</li> <li>・実務的な基本研修を追加実施することで、指導力・支援力の向上を図った。</li> <li>・ホームページ活用等、積極的な情報発信に努めた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動を中心に据えた教育活動の一層の推進</li> <li>・少人数を活かした教育活動の充実</li> <li>・学部や学習グループの実態に応じた交流及び共同学習の充実</li> <li>・関係機関との連携による進路指導・キャリア教育の充実</li> <li>・自立活動を中心とした教育実践の整理と発信</li> <li>・個々の視覚障害幼児児童生徒の状況に応じた地域支援の充実</li> <li>・京都府南部視覚・聴覚支援センターとの連携</li> <li>・専門性向上のための研究研修の一層の推進</li> <li>・防災・防犯対策の一層の充実</li> </ul>	<p>1 新学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた、各学部における授業改善</p> <p>2 幼児児童生徒数の推移を踏まえた教育活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動(行事や授業等)における学部間連携の強化と適切な学習集団の確保</li> <li>・学部・学科・学級の実情に応じた交流及び共同学習の推進</li> </ul> <p>3 言語活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内弁論大会の継続と近畿大会への積極的参加</li> <li>・日々の教育活動における取組の工夫</li> </ul> <p>4 キャリア発達と希望進路実現に向けた指導・支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア発達を踏まえた教育課程の編成(体験学習、実習等)</li> <li>・社会のニーズを踏まえつつ生徒の実態に適した職場開拓</li> <li>・卒業後の進学・就労等に関する事例の整理</li> </ul> <p>5 ICT教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末等ICT機器や視覚支援機器、点字使用者の情報機器等の活用力の向上と生涯に渡る学習基盤づくり</li> </ul> <p>6 視覚支援センターの機能強化と校内外の支援力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの取組の整理と校内外への発信</li> <li>・京都府南部視覚・聴覚支援センターと連携した新たな支援体制の構築</li> </ul> <p>7 安心安全な教育環境の保障</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災・防犯対策の一層の充実</li> <li>・人権尊重を基盤とした教育活動の一層の推進</li> </ul> <p>8 視覚障害教育の専門性及び指導力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の工夫と充実</li> <li>・免許(視覚障害領域)取得の推進</li> </ul> <p>9 教育活動や学校の取組に関する広報の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部、担当部署からの定期的な情報発信と、ホームページの積極的な活用</li> </ul> <p>10 「働き方改革」を踏まえた組織運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌・専門会議業務の点検と見直し</li> </ul>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教育活動 全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害教育の専門性と指導力の向上</li> <li>・幼児児童生徒の教育的ニーズの把握、教育内容の明確化と指導方法の工夫</li> <li>・学びの連続性を重視した小中高連携</li> <li>・職業自立を目指し、キャリア教育の視点に立った進路指導の充実</li> </ul>	<b>【小中学部】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の障害に合わせた支援を行うため、視覚障害教育の専門性に基づいて、ICT機器や視覚支援機器を活用した指導計画を立てる。</li> <li>・観点別学習状況の評価の3観点を意識した指導を進める。</li> <li>・学部間や他校と連携し、社会性の育成を目標とした集団活動を積極的に進める。</li> <li>・児童生徒の健康や安全に関し、迅速な報告、共有を図り、速やかな対応に努める。</li> <li>・ホームページを活用し、タイムリーな教育内容の情報発信を行う。 (小中各3回/月 計6回/月)</li> </ul>		
		<b>【高等部】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科会議でのタテの繋がりを基盤とし、教職員が互いに学び合い、指導上の課題解決や専門性の向上に努める。</li> <li>・体育的及び文化的行事、部活動、交流及び共同学習等をおして、豊かな人間性とたくましい体づくりを行う。</li> <li>・ホームページ(3回/月)や花ノ坊通信(4回/年)等による広報、関係機関などを訪問し、学部の取組や様子等の情報発信を行う。</li> </ul>		
		<b>【寄宿舍部】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・舎生の基本的な生活習慣の確立を支援し、健康の維持増進を図る。</li> <li>・学部と連携して舎生の学習や生活の課題を把握し、個別及び集団での取組を工夫し個々に合わせた支援を行う。</li> <li>・各学部と連携して学校運営に参画する。</li> </ul>		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教育活動 全般 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期支援の観点から医療・福祉・行政機関との連携強化</li> <li>・南部視覚・聴覚支援センターとの連携強化</li> <li>・ホームページ等を活用した視覚障害にかかわる情報発信と相談業務の充実</li> <li>・学部と連携した視覚障害教育の専門性の継承・発展</li> </ul>	<p>【視覚支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談活動や行事等について周知し、視覚障害に関わる積極的な情報発信と当事者等がつながる場を提供する。（年間12回程度）</li> <li>・研修会やケース会議の共同開催をとおり、府下全域における視覚支援の質の向上を図る（年間研修会3回、ケース会議8回程度）</li> <li>・教育相談の様子や行事・研修会の案内等を計画的に発信する。（1回/月）</li> <li>・自立活動を中心とした校内支援と、学部にも所属する地域支援担当者を活用した外部支援とを充実させる。</li> </ul>		
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な課題に機能的に対応する運営組織の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌、専門会議等の業務を整理・明確化し、次世代へ引き継げる組織作りを図る。</li> <li>・南部視覚・聴覚支援センターと連携した組織運営を進め、校内外の支援力の向上を図る。</li> </ul>		
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人に対する、きめ細やかな進路指導の充実</li> <li>・幼小中学部から高等部までの系統的キャリア教育の推進</li> <li>・進路に関する情報の提供及び効果的な活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査やキャリアパスポートをとおり、長期的視点での児童生徒の進路希望を把握し、きめ細やかな進路指導に努める。</li> <li>・自己理解・自己発信を促し、自らの進路を主体的に切り拓く態度や能力、生涯を通じて学び続ける態度を育成する。</li> <li>・進路に関する的確な情報収集を行い、児童生徒及び保護者等に対し、進路に係る情報を提供し、在学中及び卒業後のキャリア形成を図る。</li> </ul>		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
研究研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通研究テーマ「視覚障害教育に関する専門性の継承・発展及び指導力・支援力の向上」</li> <li>・専門的かつ実践的な知識と技能の共有化</li> <li>・授業力、実践力の向上</li> <li>・実践事例記録集の作成に向けた準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通研究テーマを踏まえた各部での研究授業の推進と内容を厳選した視覚障害教育に係わる計画的な研修を実施する。</li> <li>・自立活動推進部等と連携した研修や年2回の視覚障害教育研究会（全校研）を実施する。</li> <li>・授業力、実践力の向上を目的とした授業公開や研究授業の推進を図る。（各部2回／年）</li> <li>・実践事例等の資料整理と編集方針の決定を行う。</li> </ul>		
生徒指導 ・ 安全教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部及び寄宿舎との連携強化</li> <li>・問題事象等に対して、早期発見と組織的かつ計画的な対応</li> <li>・児童生徒の安全・防犯・健康に関する意識の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体で情報を共有し、校地間のつながりを意識した取組を行う。</li> <li>・「いじめ防止基本方針」に基づき、きめ細やかな指導を推進する。未然防止を第一に、早期発見、早期解消へ至る一連の対応を徹底する。</li> <li>・安心安全な学校生活を送るために必要なルールやマナーの徹底を図る。</li> <li>・学校医や学校薬剤師等、スクールカウンセラー等との連携のもと、幼児児童生徒の心身状況の把握や心のケアに努める。</li> <li>・自分自身の健康について考える力を培い、適切な生活習慣や食生活が実践できるよう日常的な保健指導を推進する。</li> <li>・各校地の特性を踏まえた避難訓練や防犯訓練、緊急時対応訓練（AEDの使用法を含む）を計画的に実施する。</li> <li>・食物アレルギー対応委員会を設置し、安心安全な給食の提供と食物アレルギーに係る研修等を計画的に実施する。</li> </ul>		
I C T 教 育 ・ 情報管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・I C T教育力のスキルアップと授業での活用推進</li> <li>・定期的な校内環境の保守管理及びセキュリティインシデント対策の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に続き、「学校DX研修」を着実に実施し、I C T教育力の向上を図る。</li> <li>・視覚アセスメント表に基づき、I C T機器や視覚支援機器、点字使用者の情報機器等のスキルの習得を系統化する。</li> <li>・文部科学省委託実証研究事業に取り組む。探究的な学習過程においてI C Tを効果的に活用し、生徒の英語力を育成するとともに、英語指導力の向上を図る。</li> <li>・I C T教育を円滑に実施するため、校内環境の保守管理を行うとともに、教職員のセキュリティ意識の向上に努める。</li> </ul>		

学校関係者 評価委員会 による評価	
次年度に 向けた改善の 方向性	